植芝翁先生の教え（早川宗甫談）講談社エディトリアル

これまで聞いた話をまとめると、この早川先生は幼少期マレーシア、シンガポールで育ち、陸軍中野学校を経て、マレー半島で戦時中にインテリジェントオフィサー(諜報員)として活躍し、ハリマオ(マレー語で虎の意)と呼ばれたその人だった様子、その後英国へ？
謎が多くでわからないことが多い。帰国後に金沢に定着し、型や競技がない武道、心法和道(通称 和道・やわらぎ、現在 合氣和道)を創設した。

ティッシュペーパーで束の割り箸を切るのを見た人は多いらしい -和道の基本稽古-箸切り

『武産合気』pp.101-102
植芝の門人にはいろいろな人がいますが、彼は今度の戦争の時、マレーの虎といわれた男です。

適意元と勝負心無し 1　2019-11-10 22:37:57
適意元と勝負心無し 2　2019-11-11 06:38:34
適意元と勝負心無し3- 心に風が吹く、軽さ　2019-11-13 12:31:39
適意元と勝負心無し 4　2019-12-06 17:37:06
適意元と勝負心無し 5　2019-12-09 11:08:13
”適意元と勝負心無し 6”　2020-10-27 14:49:19
適意元と勝負心無し 7-偶然？　2020-10-27 17:19:15
”適意元と勝負心無し―偶然?の巡り合わせ”　2020-10-28 07:30:06

https://www.youtube.com/watch?v=ZXHGq6ra6ZU
https://www.youtube.com/watch?v=N4EZWCCHXQ8

早川宗甫 ： 1924（大正13）年、シンガポール生まれ。「和道」の開祖。九歳で少林寺僧の張祖師に師事、十五歳で植芝翁先生に師事、五十二歳で禅僧の大老師と老師に師事。2000（平成12）年に没

愚朗 ： 1949（昭和24）年、石川県生まれ。早川宗甫に師事し、武道歴四十六年。金沢市で治療師を務める（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

https://ameblo.jp/mugenjuku7/entry-12840415254.html
和道という武道

http://www.hi-j.net/aikiwado1.htm
　合氣和道とは、太祖から和道を伝授された宗甫師父（開祖）が、改名し太祖伝心法和道として、始まったものを、心法和道または、心法和（しんぽうやわらぎ）として,師父の友人として伝承された私が、合氣和道と改名し、1997年より京都で、宗甫師父の希望により公開を始めたものである。
なりたち特徴　一般の格闘技とは大きく異なり、相手と戦って勝つという目的ではなく、太祖の伝える真の武道、すなわち、相手と和合することにより戦わないところを目指す武道である。

　そこには、勝った負けたの差はなく、お互いに錬磨しあうことにより、自分のみの向上に捕らわれることなく、相手の成長にいかに役立てる自分を作り出すかを目的とし、真の人類へのご奉公の道を行うものである。練習体系　練習の技法には、日本古来の柔術・剣の技法、また古神道体系、中国拳法の技法を利用する。

　通常の武道と違い、技の成否を問うのではなく、練習の過程に学ぶところ（和）と自分のコントロール（心と体）を目的とする。特に技の途中で、和の心がとぎれないように行うことが強く要求される。例えば、一般の武道では相手の隙をうかがい、その隙に攻撃をし、打ち勝つところが常であるが、合氣和道の場合は、相手の隙に自分の氣を恵み合わせ、氣の均衡を図りつつ調和を生成しながら稽古することが出来るようになることを要求される。
　すなわちそこには、勝負の区別はなく、和を持って稽古するのである。合氣和道

※早川宗甫の半生は、彼をモデルにした小説『東南アジアの不死鳥』に詳しい、が、だいたい出回ってない。

戦後は植芝盛平が隠居していた岩間にて稽古をし、それまでの経歴を活かしてボルネオで合気道の普及を行ったらしい。
その後もインドでヨガ、フランスで合気拳法、心理学、日本で禅などを学ぶ。
そして金沢で合気道と同じ意味で和する道、和道こと「太祖神統傳心法和道」を開く。
彼については植芝盛平も『武産合気』でボルネオにマレーの虎と呼ばれた男が合気道の指導をしに行っている、みたいな感じで言及している。

本の内容
この本は編者の愚朗こと治療家、千葉東勇平（チバト　ユウヘイ）氏が早川宗甫をマッサージした時などに聞いた話をまとめているらしい。
そのせいもあってか、内容が重複してることもままあるけれど、聞いた言葉のメモを忠実に公開したと捉える事もできる。
文字もかなり太字なので、ページ数のわりには内容は少なめ。ただ、早川宗甫の言葉なんて他に残されてないので貴重なことに変わりはない。
話の内容に関してはタイトルの通り、植芝盛平から学んだ事、その他の師との共通点などがベースに語られている。

面白ポイント
基本的に言ってることは植芝盛平と同じで平常の時こそが大切で、力を抜くこと、みたいな話をしている。植芝盛平の弟子らしくスピリチュアルな話も多いけど、植芝盛平よりかわかりやすい。
かなり前提知識がないと、あんまり面白く読めないかも知れないけれど、反対に知識があるとちょこちょこ興味深い部分がある。
たまにイニシャルトークで有名師範なんかについても言及されていて、植芝盛平のボヤキみたいなのもあって面白かった。
「あれはワシの悪いところばかり真似をして、ジイが六十過ぎてから悟ったことを教えてやるから習いに来いと言っても、また神がかりのことかと言って習いに来なかった」
早川宗甫、愚朗『植芝翁先生の教え』p194
こういうのはなんとなく誰のことなのか想像してみると面白い。まぁ、ホントに植芝盛平が言ったかどうかはわからないけどね。

まとめ
というわけで『植芝翁先生の教え』は貴重な資料であることは間違いないが、かなり読み手を選ぶ本でもある。
個人的にはそれなりに楽しく読めたものの、何の予備知識もない人にはあんまりオススメできない。という感じだった。

愚朗, 1949- - Web NDL Authorities (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス)
愚朗

名称/タイトル	愚朗, 1949-
別名/別タイトル	千葉東，勇平　チバト，ユウヘイ（本名）
生年	1949 年
職業	治療師
出典	植芝翁先生の教え, 2022.4